

## スポーツと作業療法

### 特集にあたって

理学療法士及び作業療法士法が施行されたのは1965年（昭和40年）のことである。その前年に東京オリンピックが開催され、1965年に国内で初めて全国身体障害者スポーツ大会が開催されている。来年は法律が施行されて50年、障害者スポーツ大会が開催されて50年である。私たちOTが発展してきたように、障害者スポーツもリハの延長線上のスポーツではなく、競技スポーツへと発展している。このことは1964年（昭和39年）東京オリンピックに託された役目だったとも思える。スポーツは健康増進として、レクリエーションから競技スポーツ等、多様な目的に応じて行える活動の一つで、社会的リハの一手段としても活用でき、多彩な効果を得ることができる。

今回は2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を受けて、1人でも多くのOTがスポーツの価値を見だし、治療手段として、訓練手段として、健康増進として、社会参加の一手段として活用していただきたいと思い、特集を企画した。リハの精神ともいえる名言「失ったものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ」はパラリンピックの父とされるLudwig Guttmanの言葉であったことをご存じであろうか。1964年に開催された全国障害者スポーツ大会の意義について君島氏に詳しく論じていただいている。50年前の全国身体障害者スポーツ大会の始まりから最近のパラリンピックの様子、国内外の競技スポーツの紹介、障害別にみたスポーツの特徴や課題について、歴史的、包括的、国際的に記載されている。ぜひ、すべての稿をご覧ください。スポーツのすそ野を広げることや、競技団体に参加していただくこと等で、東京オリンピック・パラリンピック成功に向けて、多くのOTがかかわってくださることを期待する。

（本山幸子）

#### 企画担当

本山 幸子（岡本病院、作業療法士）

江藤 文夫（国立障害者リハビリテーションセンター顧問、医師）

中村 春基（兵庫県立リハビリテーション中央病院、作業療法士）